

報道機関 各位

食中毒を発生させた施設の行政処分について

1 食中毒の概要

(1) 探 知

令和5年12月1日（金）午前11時頃、市内医療機関から「11月17日（金）に越谷市内の焼鳥屋を利用した5名のうち3名が、11月20日（月）から下痢、腹痛等の症状を呈している。」旨の通報があり、調査を開始した。

(2) 喫食日時：11月17日（金）午後7時頃

(3) 発症日時：11月20日（月）午前7時頃

(4) 喫食者数：1グループ、5名

(5) 患者数：3名（20代女性1名、50代女性2名）

※入院者1名。全員、快方に向かっている。

(6) 主な症状：腹痛、下痢、発熱等

(7) 喫食メニュー：鳥刺し、ササミ柚子胡椒、とりもも串、ねぎま串、つくね串、サラダ等

(8) 原因施設：

ア 名称：

イ 所在地：越谷市

ウ 営業者：

エ 業 種：飲食店営業

オ 病因物質：カンピロバクター

2 原因施設として断定した理由

(1) 患者3名の便からカンピロバクターが検出されたこと。

(2) 患者の症状及び潜伏期間がカンピロバクターによるものと一致したこと。

(3) 患者の共通食が11月17日に原因施設で調理、提供された料理に限られること。

(4) 患者を診察した医師から、食中毒患者等届出票が提出されたこと。

3 行政処分の内容

食品衛生法第6条違反

同法第60条第1項に基づき営業停止

処分年月日：令和5年12月9日（土）

営業停止3日間：令和5年12月9日（土）～12月11日（月）

4 指導内容

越谷市保健所では、営業停止期間中に食中毒の再発防止を目的として、営業者、調理従事者に対する衛生教育等を行う。

問合せ 保健医療部 保健所
生活衛生課長 鈴木 一良
直通 080-8813-6858
080-1988-7596

（参考）カンピロバクター食中毒について

1 カンピロバクターとは

カンピロバクターは鶏等の家きんをはじめ、多くの動物の腸内に生息しています。

生の鶏肉が感染源となることが多く、食品や飲料水を通じて感染する事例もあります。

2 主な原因食品

生や加熱不十分の鶏肉やレバーなど（鶏刺し、鶏たたき、レバ刺しなど）や、生肉等に触れた調理器具等により2次汚染された食品が主な原因になります。

3 症状及び発症までの時間

感染すると2～5日の潜伏期間の後、下痢、腹痛、発熱などの症状を起します。

4 予防方法

カンピロバクターの食中毒予防には、十分な加熱をすることが重要です。肉は中心部の赤みがなくなるまで、十分加熱してから食べましょう。

カンピロバクター食中毒予防についてQ&A（厚生労働省ホームページ）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000126281.html>

食品衛生法

第六条 次に掲げる食品又は添加物は、これを販売し(不特定又は多数の者に授与する販売以外の場合を含む。以下同じ。)、又は販売の用に供するために、採取し、製造し、輸入し、加工し、使用し、調理し、貯蔵し、若しくは陳列してはならない。

- 一 腐敗し、若しくは変敗したもの又は未熟であるもの。ただし、一般に人の健康を損なうおそれがなく飲食に適すると認められているものは、この限りでない。
- 二 有毒な、若しくは有害な物質が含まれ、若しくは付着し、又はこれらの疑いがあるもの。ただし、人の健康を損なうおそれがない場合として厚生労働大臣が定める場合においては、この限りでない。
- 三 病原微生物により汚染され、又はその疑いがあり、人の健康を損なうおそれがあるもの。
- 四 不潔、異物の混入又は添加その他の事由により、人の健康を損なうおそれがあるもの。

第六十条 都道府県知事は、営業者が第六条、第八条第一項、第十条から第十二条まで、第十三条第二項若しくは第三項、第十六条、第十八条第二項若しくは第三項、第十九条第二項、第二十条、第二十五条第一項、第二十六条第四項、第四十八条第一項、第五十条第二項、第五十一条第二項、第五十二条第二項若しくは第五十三条第一項の規定に違反した場合、第七条第一項から第三項まで、第九条第一項若しくは第十七条第一項の規定による禁止に違反した場合、第五十五条第二項第一号若しくは第三号に該当するに至った場合又は同条第三項の規定による条件に違反した場合においては、同条第一項の許可を取り消し、又は営業の全部若しくは一部を禁止し、若しくは期間を定めて停止することができる。

- ② 厚生労働大臣は、営業者(食品、添加物、器具又は容器包装を輸入することを営む人又は法人に限る。)が第六条、第八条第一項、第十条第二項、第十一条、第十二条、第十三条第二項若しくは第三項、第十六条、第十八条第二項若しくは第三項、第二十六条第四項、第五十条第二項、第五十一条第二項、第五十二条第二項若しくは第五十三条第一項の規定に違反した場合又は第七条第一項から第三項まで、第九条第一項若しくは第十七条第一項の規定による禁止に違反した場合においては、営業の全部若しくは一部を禁止し、又は期間を定めて停止することができる。